

棚田を守る持続可能な農業へ

ドローンの強みを活かす

J Aレーク滋賀大津北宮農経済センターは8月上旬、大津市の上仰木・辻ヶ下第三集落協定推進会の依頼を受け、ドローンで水稻のカメムシ防除を行いました。

上仰木・辻ヶ下は比叡山の麓の中山間地域で、平安時代初期に遡り比叡山延暦寺の荘園として始まった棚田が現存しています。同会はこの棚田を守るため、持続可能な農業を行うことを目的にドローンを活用したスマート農業の利用を考えており、今回初めてカメムシ防除のモデル箇所を5畝選定して実施しました。

棚田の農作業は苦勞が多い中、地域の農家で農地を守ってきました。

同センターの八田憲課長は「棚田は急斜面が多く車の入れない場所もあり、ドローンの離発着ができない困難な部分もあったが、防除作業には存分にドローンの強みを活かして散布ができた。今後も様々な場面でドローンを活用することで、地域農業の活性化に貢献していきたい」と話しました。



ドローンで棚田ノカメムシ防除を実施
(8月2日、大津市上仰木の棚田で)